「子どもの居場所」団体との関わりから見えた地域課題と企業に期待する役割

埼玉県三郷市

子ども未来部　子ども政策室

令和２年２月１０日　作成

どんな「地域課題」があるか

●現状把握

- 子どもの居場所団体へのヒアリング
- 子どもや保護者へのアンケート（無作為抽出）
- 三郷市子ども・子育て会議での意見聴取

↓

●地域課題

家でも学校でもない第３の居場所として、子どもが一人でも安心して行くことができる「子どもの居場所」づくりの必要性が高まっている。

「子どもの居場所」とは（定義）

「子どもの居場所」とは、無料または低額で利用でき、子どもが一人でも安心していくことができる場を総称している。

公営も民営も対象としている。

（定義は全国統一ではなく、三郷市独自）

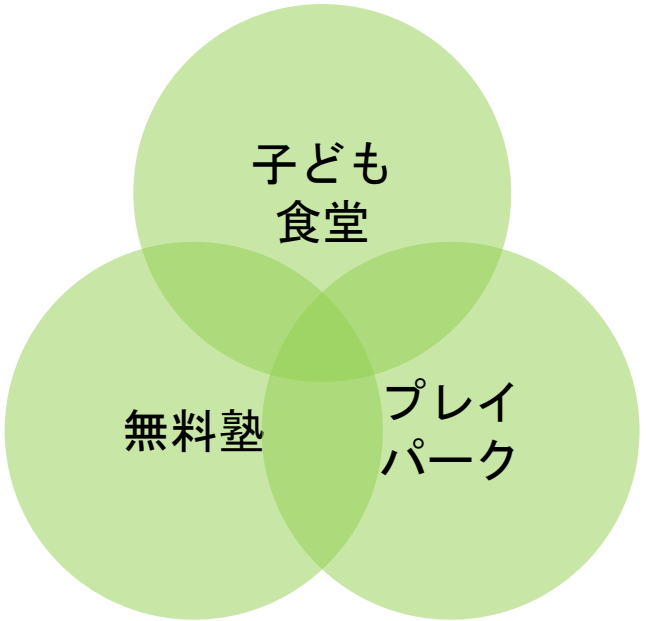
「子どもの居場所」とは（具体的には何か）

公営（公助）→三郷市

放課後 児童クラブ	放課後 子ども教室	児童館
放課後等 デイサービス	学習支援 事業	公民館
図書館	文化施設	

など

民営（共助）→NPO法人等が運営



など

多様・複合的なニーズに対応

「子どもの居場所」の推進方針

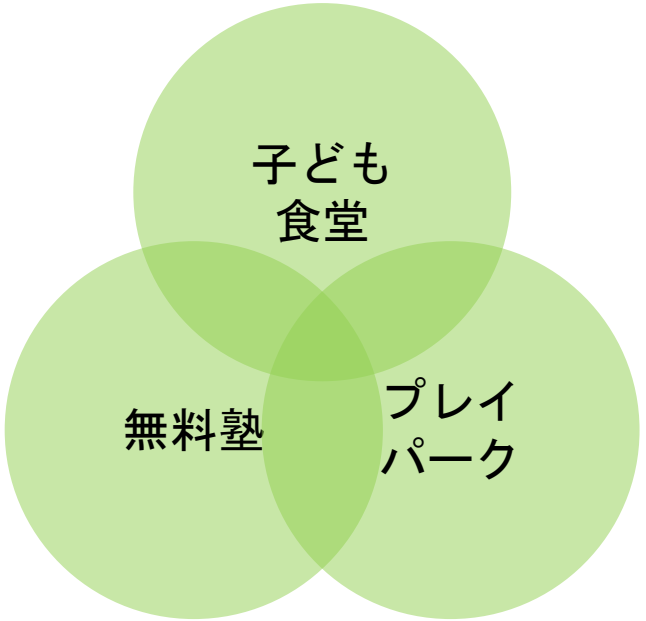
全国的に、子どものニーズや子育てのニーズが多様化している。

三郷市では、多様なニーズに対応できるように、**「公営（公助）」と「民営（共助）」の取り組みを両輪として、重点的に「子どもの居場所」づくりを推進**している。

「子どもの居場所」の推進方針

公営（公助）　＋　民営（共助）＝　重層的に子どもを支える

放課後 児童クラブ	放課後 子ども教室	児童館
放課後等 デイサービス	学習支援 事業	公民館
図書館	文化施設	



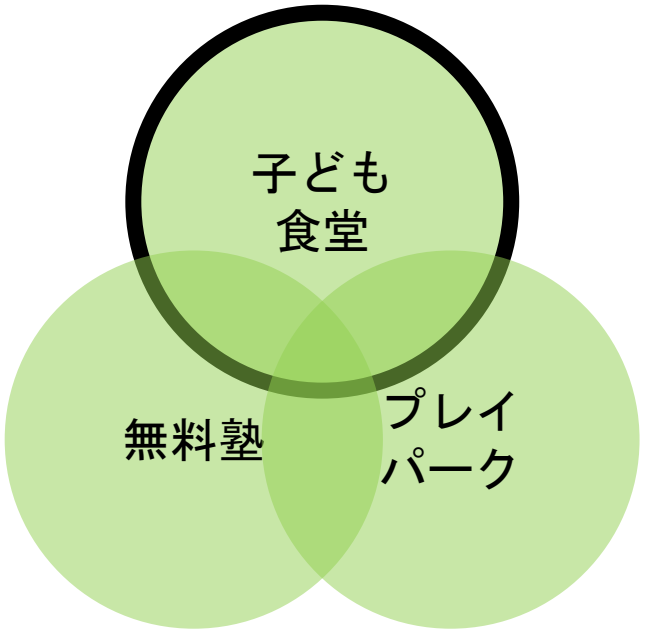
「民営」の現状とは（例：子ども食堂）

公営（公助）→三郷市

放課後 児童クラブ	放課後 子ども教室	児童館
放課後等 デイサービス	学習支援 事業	公民館
図書館	文化施設	

など

民営（共助）→NPO法人等が運営



など

多様・複合的なニーズに対応

「子ども食堂」とは

企業や地域の方からの寄付などで運営されている**非営利の活動**である。

三郷市では、その多様性を尊重しながら、寄付の申し出について、寄付元と子ども食堂団体との橋渡しをしたり、各種情報提供などを行っている。

「子ども食堂」とは

無料又は低額で食事を提供する場所である。

企業や地域の方からの寄付などで運営されている**非営利の活動**である。

「子ども食堂」の利用者とは

利用者の約８割は、多世代交流型

- 乳幼児
- 小学生
- 中学生
- 高校生
- 大学生
- 社会人
- 子どもの保護者
- 高齢者

「子ども食堂」の役割とは

「子ども食堂」の役割は、多様

- 地域の交流拠点
- 孤食防止
- 子育て支援
- 貧困支援
- 学習支援
- 子どもの遊び場
- 第３の居場所
- 高齢者の生きがい

など

「子ども食堂」の課題とは①

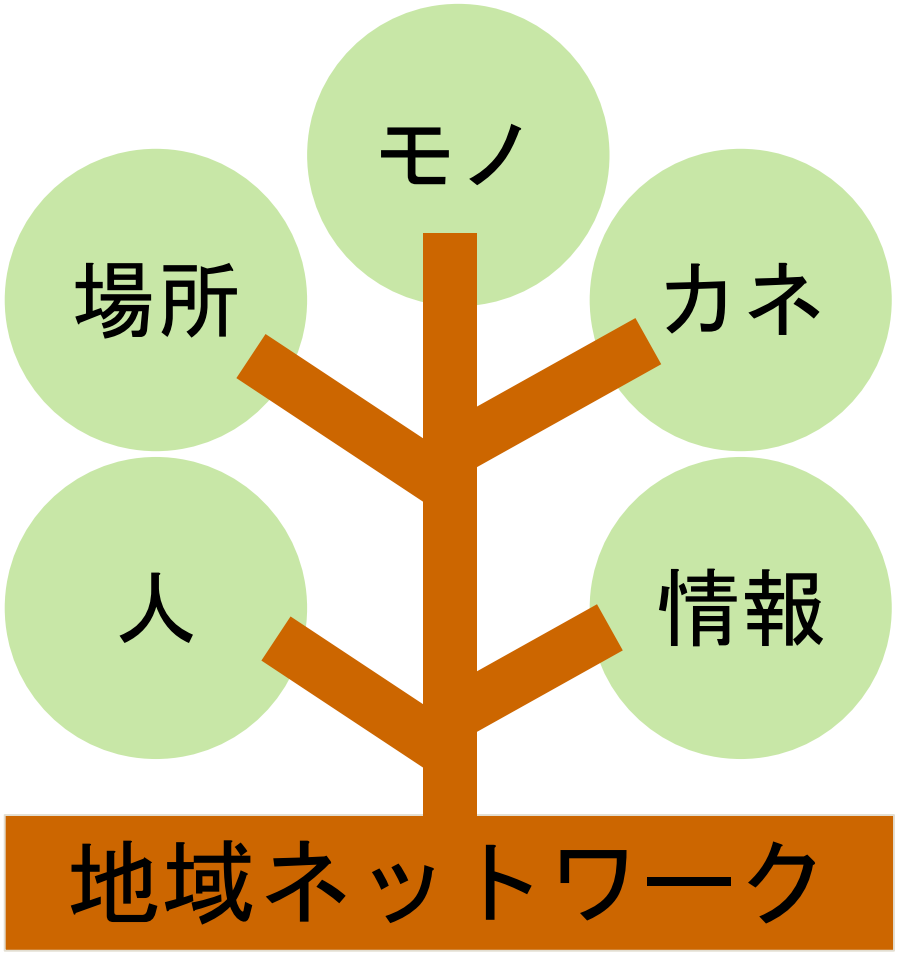
５つの“ない”

人	場所	モノ	カネ	情報
が足りない	がない	がない	がない	がない
人が集まったら、全て解決するの？	場所があったら、全て解決するの？	モノがあったら、全て解決するの？	カネがあったら、全て解決するの？	情報があったら、全て解決するの？

① ５つの“ない”を全て克服する必要がある。
② 立上時だけでなく、継続的に機能するための“源泉”が必要。

「子ども食堂」の課題とは②

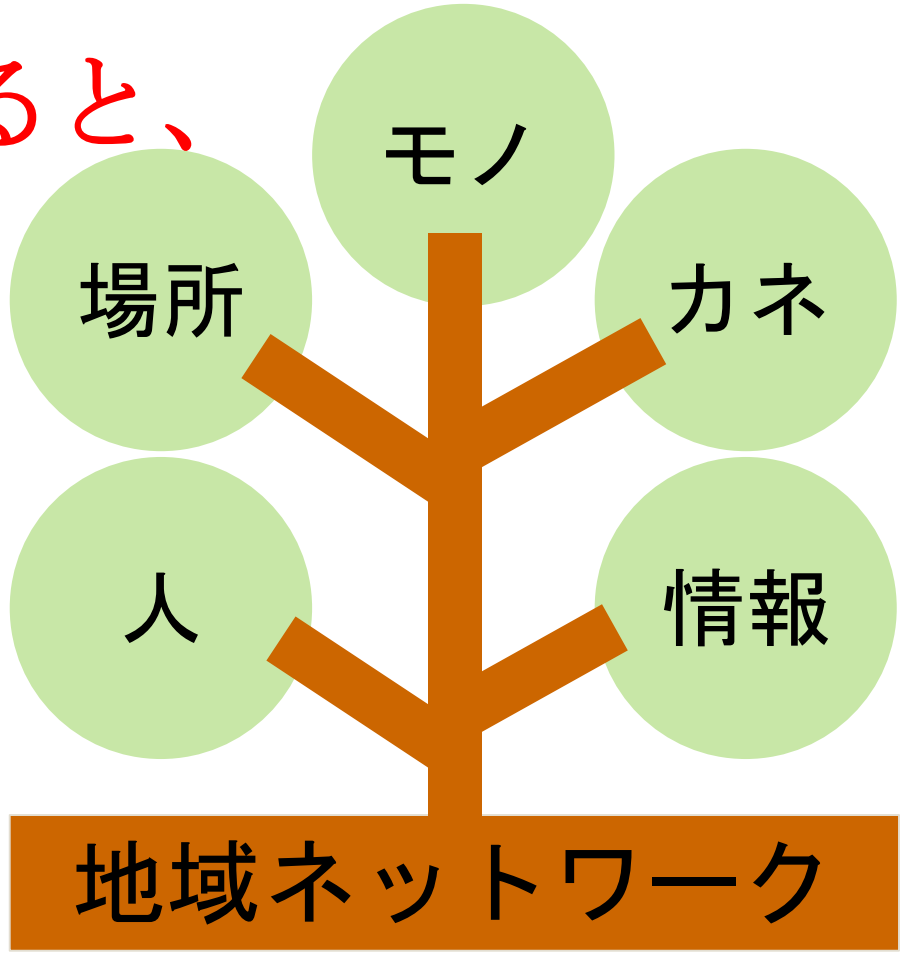
①５つの「ない」を克服し、
②継続的に機能し得るものは
何か？
↓
「地域ネットワーク」が
５つの要素を生み出す“源泉”
となり得る
（木に例えると土）



「子ども食堂」の課題とは③

「地域ネットワーク」があると、

人：一緒にやりたい人が集まる
場所：場所を提供する人が現れる
モノ：食材やおもちゃが集まる
カネ：寄付金が集まる
情報：上記４つに関する
　　有益な情報が集まる

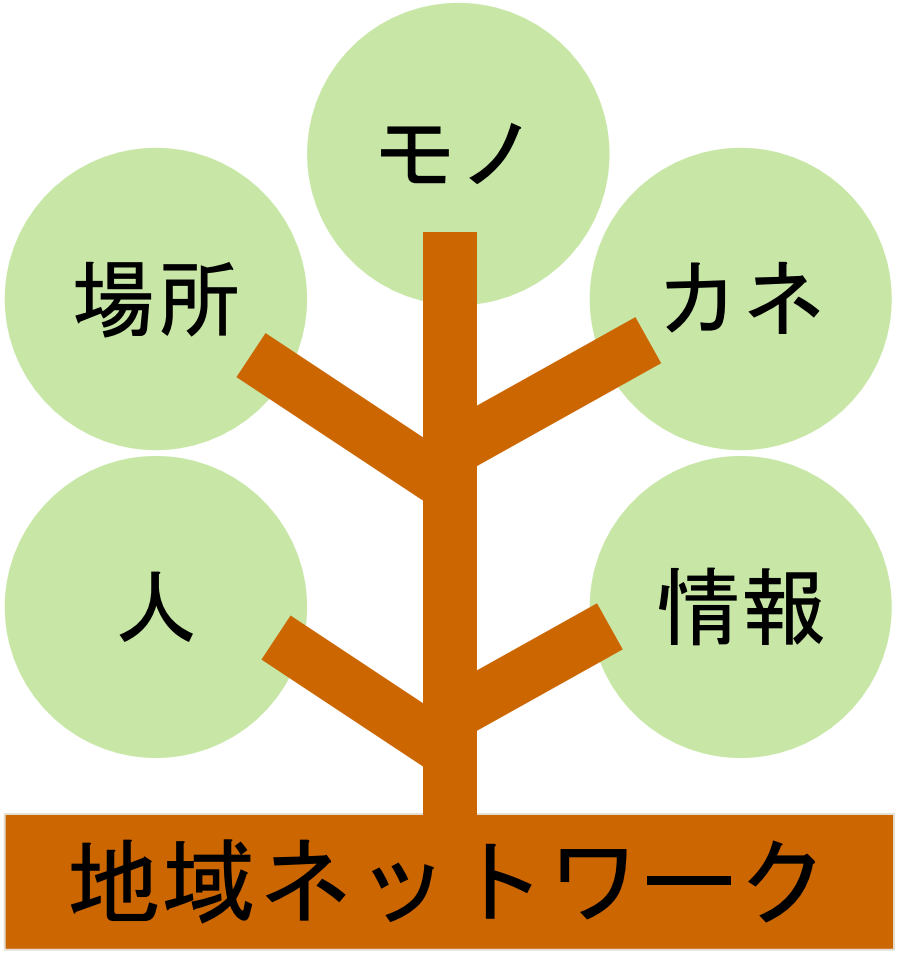


「子ども食堂」の課題とは④

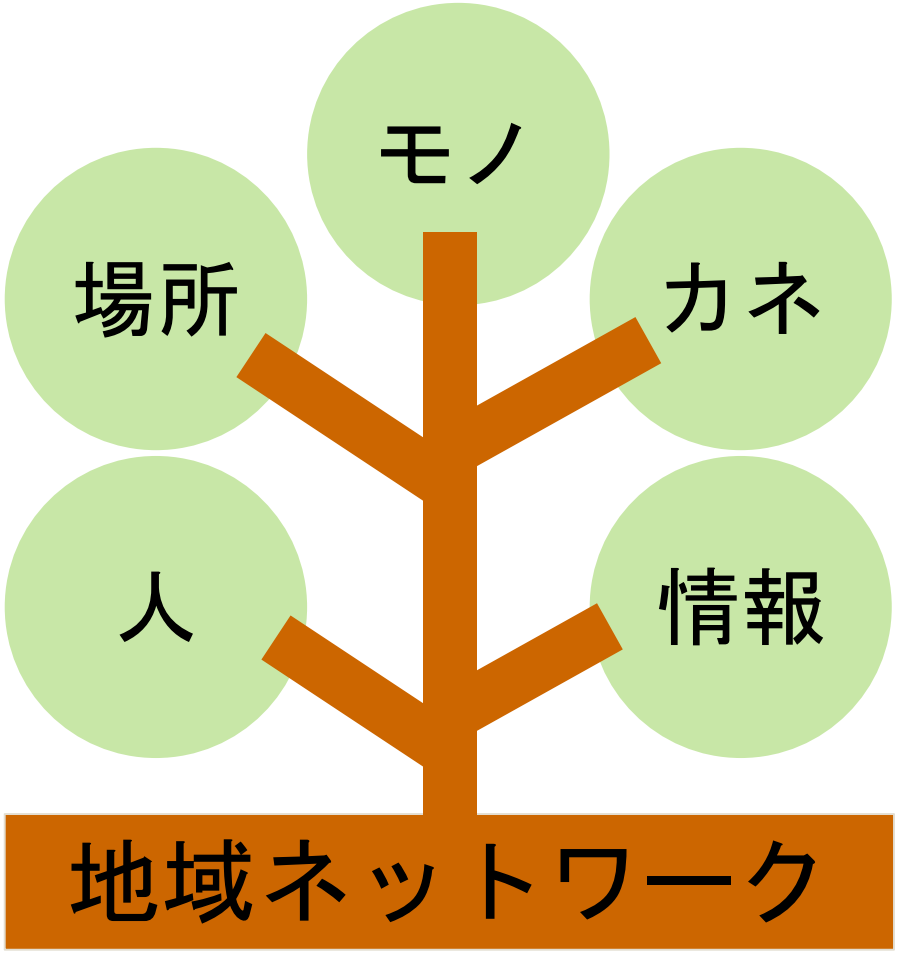
５つの要素の源泉である
「地域ネットワーク」形成の
後押しが最優先課題

↓

三郷市で
「地域ネットワーク」形成を
後押しする取り組みをしよう！



「地域ネットワーク」形成の後押し



土の肥料になるような
取り組みを紹介　　→

「地域ネットワーク」形成の後押し

①セミナー

交流会の時間を多く設けるだけでなく、関係者同士の個別引き合わせも積極的に行い、ネットワーク形成を後押し。

②情報発信（旗振り役）

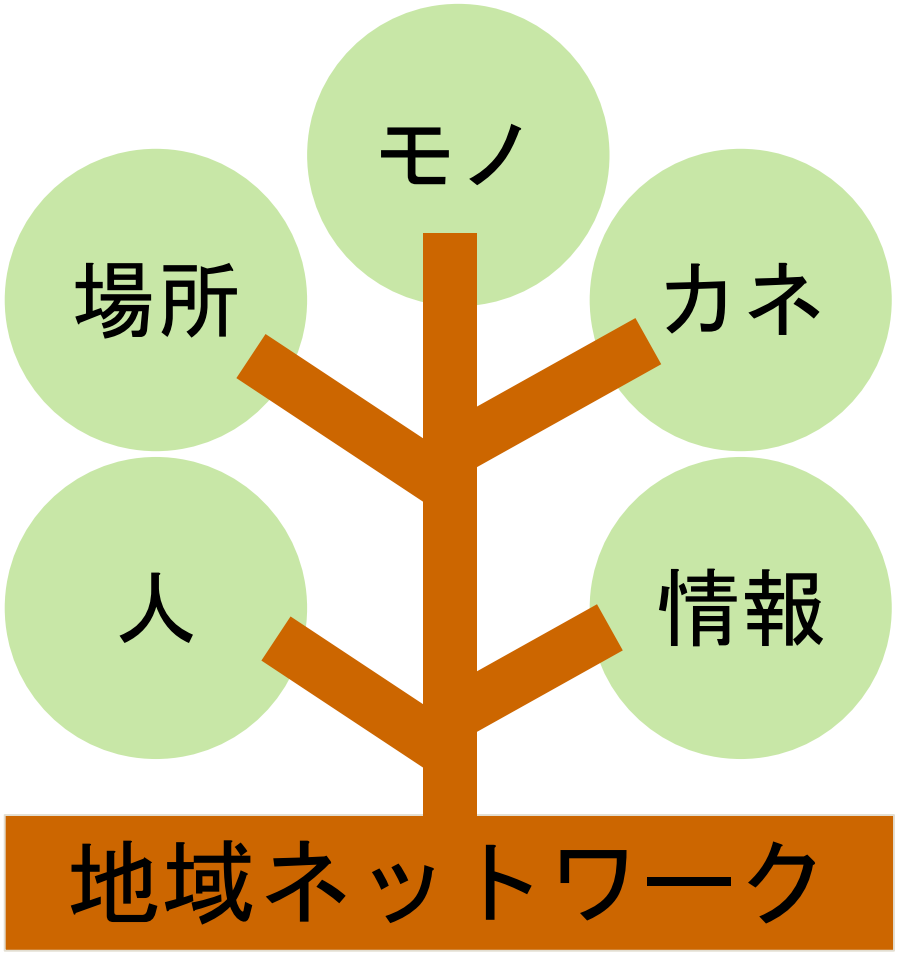
報道機関やSNSなどでの情報発信を通して、「子どもの居場所」の応援者を増やすなど、機運の醸成（底上げ）を図ることで、ネットワーク形成しやすい環境づくりを行う。

③相談体制の整備

三郷市社会福祉協議会と子ども政策室が同席の上、合同で相談対応を行うなど、各課や関係機関と連携することで、ネットワーク形成しやすい環境づくりを行う。

５つの要素への個別取組

５つの要素に
個別にアプローチする　→
取り組みを紹介



５つの要素への個別取組　マッチング事例①

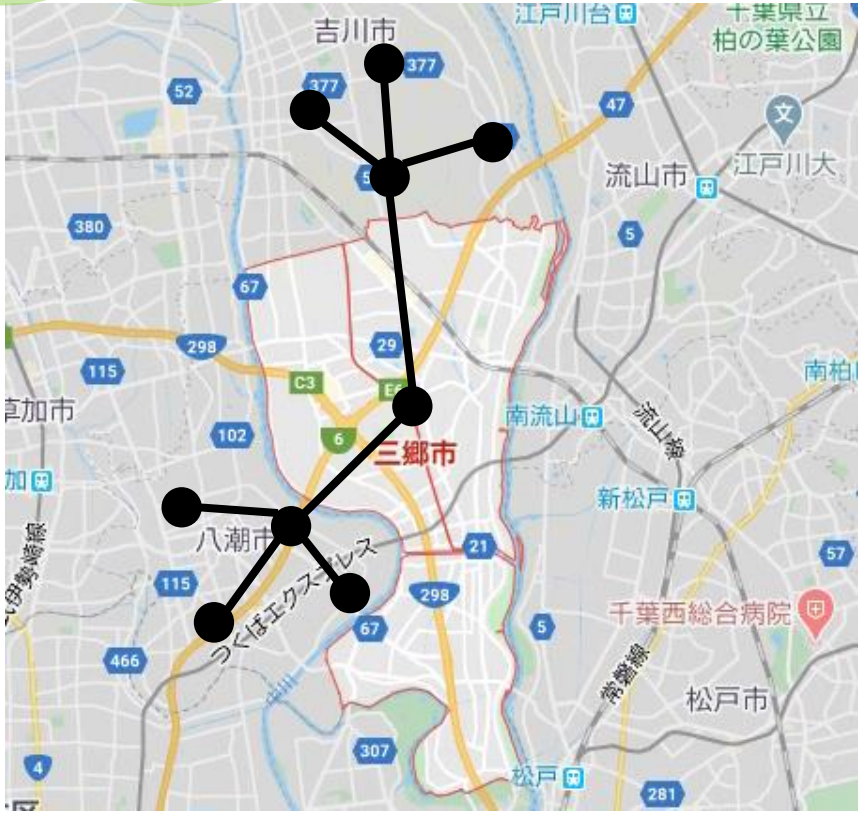
場所　お寺のマッチング

モノ　備品（冷蔵庫、下足箱）のマッチング

５つの要素への個別取組　マッチング事例②

モノ　食品のマッチング

情報　モノ　団体同士のマッチング



実は、マッチングも「地域ネットワーク」形成を後押しする取り組みの１つ

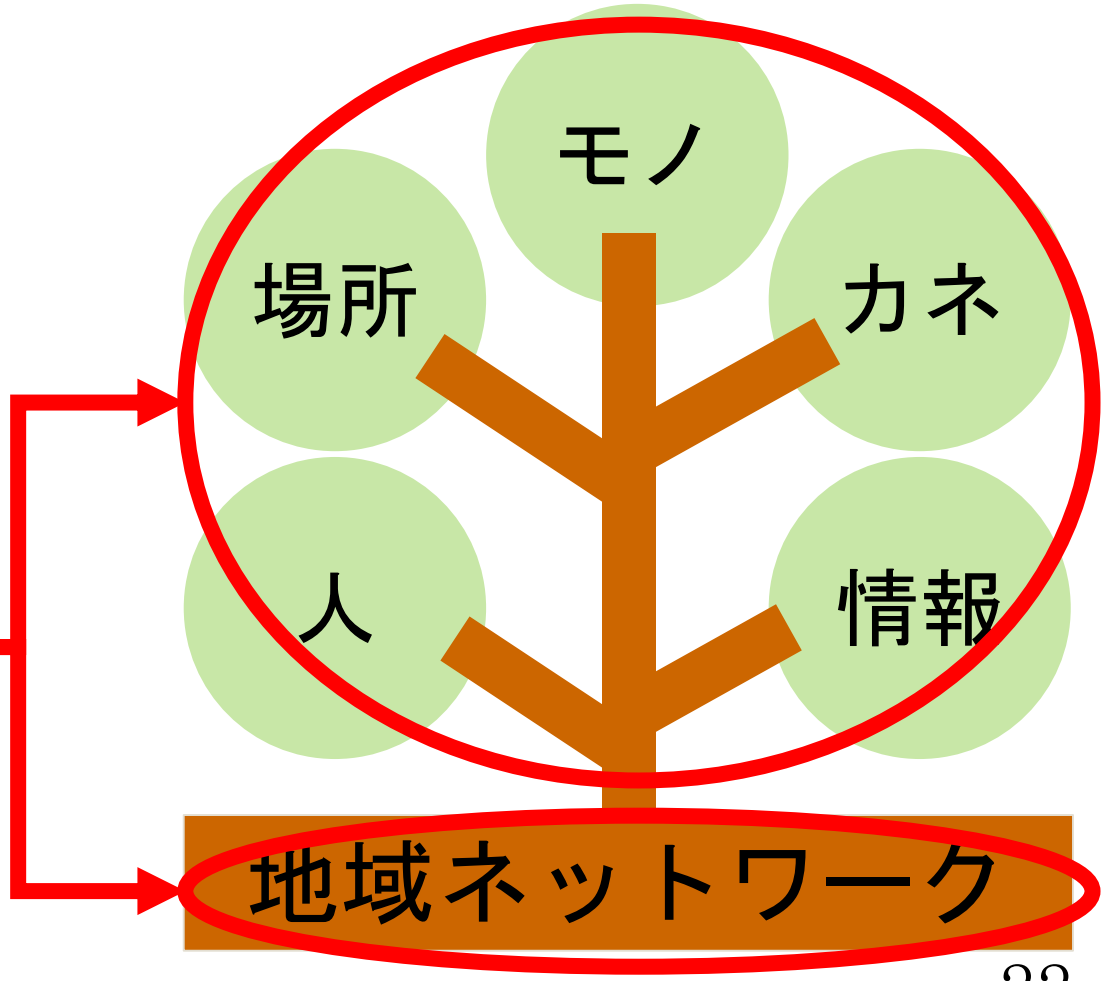
例：食品寄付のマッチング

寄付元に継続的な応援者になってもらうことを目指して、寄付元と寄付先のマッチング（橋渡し）を行っている。「モノ」を充足するための一時的な課題解決ではなく、顔の見える関係を築いてもらうために、当事者間でのやりとりを原則とし、寄付先から寄付元への取組紹介をお願いしている。

また、マッチング（橋渡し）に関するプレス発表を行い、メディアに掲載されることで、「子どもの居場所」の認知度向上に努めている。このことを通して、「子どもの居場所」を応援する人を増やすなど、「地域ネットワーク」を形成しやすい機運づくりに繋げている。

実は、マッチングも「地域ネットワーク」形成を後押しする取り組みの１つ

マッチングは、
両方にアプローチする
取り組み



御社に期待する役割

【三郷市商工会への依頼例】

- 事務所を使っていない毎週●曜日に、子どもの居場所を運営してくれる人を探している。
- 自社でバンやトラックを持っているので、子どもの居場所への食品配送に協力できる。
- 在庫整理の関係で月末に大量の余剰品が発生するので、子どもの居場所へ寄付したい。（食品、化粧品、電化製品、おもちゃ、絵本など）
- 会社でフードドライブ（各家庭で余った食品を持ち寄り寄付する活動）を実施しており、寄付先を探している。
- リサイクルショップを営んでおり、冷蔵庫や冷凍庫、炊飯器を寄付できる。

など

御社に期待する役割

どこの位置にいても、必ずできることがある

どこにあるか調べてみる
（県や市町村のHPで）
→　誰かに教えることが
できるようになる

実際に行ってみる
→　体験したり、
話を聞くことで、
アイデアが
浮かぶようになる

ホップ

会社内でフードドライブを実施
→　子どもの居場所に寄付

使わない部屋・時間帯を調べてみる
→　子どもの居場所に貸し出し

社員研修を実施してみる
→　研修先に子どもの居場所を選定

ステップ

子ども食堂を
やってみる

ジャンプ

自治体にもご相談を

- 最初は、「何かやりたいけど、どうすればいいかわからない」で問題ありません。
- 埼玉県や市町村に相談することで、ヒントが得られる場合もあります。
- 行政や子どもの居場所団体の方と話している中で、アイデアを出し合い、できることを考えてみましょう。
- 御社のはじめの一歩で、未来が変わるかもしれません。

相談先

- 埼玉県　少子政策課　電話：048-830-3204
- 三郷市　子ども政策室　電話：048-930-7816
- 他の市町村

  スマホやウェブで「●●市町村　子どもの居場所」や「●●市町村　子ども食堂」で検索してみましょう。

  見つからない場合は、市町村へ直接電話を。